

平成25年 第9回教育委員会会議録

1 日 時

平成25年7月19日(金)

開会 13時00分

閉会 14時00分

2 場 所

教育委員会室

3 出席した委員

金田清委員長、八重澤美知子委員、横山真紀委員、橋正徹委員、木下公司教育長

4 説明のため出席した職員

村田潔教育次長、池廣巖雄教育次長、平島敏彦教育次長、表純一教育次長兼教員指導力向上推進室長、竹中功教育次長兼学校指導課長、濱辺正実教育次長兼スポーツ健康課長、金戸清外志庶務課長、齊田正活教職員課長、坂井芳子生涯学習課長、中川智夫文化財課長

5 議案件名及び採決の結果

- | | |
|---|--------|
| 議案第22号 財団法人中能登町体育振興事業団の解散及び残余財産の処分の許可について | (原案可決) |
| 議案第23号 石川県産業教育審議会委員の委嘱について | (原案可決) |
| 議案第24号 教職員の人事について | (原案可決) |

6 報告案件

- 報告第1号 平成25年度基礎学力調査の結果について
報告第2号 平成24年石川県優良部活動指導者表彰について

7 審議の概要

・開会宣告

金田委員長が開会を告げる。

・会議の公開・非公開の決定

議案第23号及び議案第24号は、人事に関する案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項に基づき非公開とすることを、全会一致で決定。

・質疑要旨

議案第22号 財団法人中能登町体育振興事業団の解散及び残余財産の処分の許可について
(濱辺教育次長兼スポーツ健康課長説明)

1ページをお開きください。

この度、財団法人中能登町体育振興事業団理事長 池島憲雄から、関係法令に基づき、解散及び残余財産処分の許可申請があり、教育委員会に付議するものであります。

当法人については、これまでも中能登町に事業の運転資金や事務を全面的に委ねて運営されているのが現状であり、今後は町が主体となって生涯スポーツの振興や地域住民の健康増進を図っていききたいとの考えから、解散するものであります。

また、残余財産につきましては、2ページの「残余財産目録」のとおり、基本財産及び流動資産、その他の固定資産を合わせて、4億3,487万円余となっております。これらは、解散に伴う事務経費に充てられ、残額は中能登町に全額寄附される予定であります。

なお、当法人では、この申請に先立って、本年5月24日に理事会を開催して、解散及び残余財産の処分方法について審議し、議決をいたしております。

議案の内容は以上のとおりですが、解散事由、残余財産の処分方法とも適当であると認められることから、許可して差し支えないものと考えております。

【質疑】

(金田委員長)

今後は、中能登町のスポーツ担当課で施設管理を行うということなのか。

(濱辺教育次長兼スポーツ健康課長)

中能登町の直営施設となると聞いている。

(金田委員長)

採決を求める。

(全委員)

異議なし。

報告第1号 平成25年度基礎学力調査の結果について
(竹中教育次長兼学校指導課長説明)

5ページをご覧ください。

まず、1の「調査の目的」につきましては、主に、本県児童生徒の基礎的・基本的な知識・技能や活用力の定着状況等を把握・分析し、学校における教育指導の改善を図ることでございます。

2の「調査の対象等」ですが、「教科に関する調査」の実施校数、実施児童生徒数、対象教科等については、表に示したとおりであり、小6及び中3の対象教科については、例年同じ時期に実施される全国調査と重ならない教科を実施することとしております。

(2)の教員に対する調査についても、例年どおり、指導状況等について抽出調査を行っております。

6ページをご覧ください。

「3 調査の日時」については、記載のとおりです。

それでは、調査結果について説明いたします。

「4 調査結果の概要」の「(1) 教科に関する調査結果」をご覧ください。

小学校第4学年ですが、国語の県全体の平均正答率は74.4%、算数は67.9%でした。

小学校第6学年につきましては、社会の正答率は65.4%、理科は70.1%でした。

中学校第3学年の社会の正答率は48.3%、理科は50.2%、英語は57.4%でした。

なお、昨年度は、全国調査で理科が実施されたため、基礎学力調査では行っておりません。

ほとんどの教科で平均正答率が下降しておりますが、基礎的・基本的事項については概ね良好であります。県として活用力の育成を目指していることから、活用力の定着状況をより適切に見るために、活用問題を中心に難易度を上げたことなどが主な要因と考えております。

教科ごとに課題の見られた領域・分野やその対策については、例年、報告書「分析・考察」を作成し、その中に盛り込んでいくこととしております。そのため、今後、調査結果の詳細な分析・考察を進め、改善のための具体的な指導事例を作成するなど、より一層内容を充実し、9月中を目途に、各学校等へ配付することとしております。

次に、「(2) 質問紙調査結果」について説明いたします。7ページをご覧ください。

小学校第4学年の回答状況ですが、1の「学習に対する関心・意欲・態度」について、特徴的なものを紹介しますと、「自分の考えを发表或し、話し合ったりすること」については、「好き」「どちらかといえば好き」と肯定的な回答をした児童の割合は70.7%で、「課題について、自分で考えた方法で調べたり確かめたりしながら勉強すること」についても77.6%と、昨年を引き続いて、概ね良い結果となっております。

また、2の「家庭学習習慣」に関しては、いずれの項目も肯定的な回答をした児童の割合は昨年度と同程度で、与えられた学習に対しては、きちんと取り組んでいる児童が多いという良好な結果でした。

以上、小学校4年生の回答状況から、抜粋して説明しました。

なお、小学校6年生と中学校3年生については、国の調査結果と併せて報告させていただきます。

続いて、教員の質問紙調査結果についてですが、教科等に関する指導については、「記録、要約、説明、論述などの言語活動を重視した指導をしている」と回答した教員の割合が、小学校で74.9%、中学校で68.2%となっており、また、「考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるように指導をしている」割合が、小学校で85.7%、

中学校で71.2%となっております。

いずれも昨年度とほぼ同程度かやや上回る結果であり、活用力の向上を目指す取組を進めている中で、概ね良い結果といえます。

以上が、調査結果の概要であります。

この集計結果については、学校に配付したところで、それぞれの採点や分析に役立ててもらおうことにしております。

【質疑】

(金田委員長)

活用力を問う問題を多くしたから正答率が下がったということだが、問い方に問題がなかったか検証したのか。

(竹中教育次長兼学校指導課長)

現在、分析を進めているところである。

基礎的・基本的な部分については、例年と余り変わらない結果だが、今回は問い方について、考える条件を増やしたり、少しレベルの高い記述を求めたりする場面があり、そのようなどころでは少し正答率が下がっている。

今後、問い方や現場の指導について分析を進めたい。

(横山委員)

英語の正答率は、どのような事情で下がったのか。ある資料では、正答率が、聞くことについては高いが、記述することになると大きく下がることが示されているが、聞けるようになったが書けない子どもが増えたということなのか。

(竹中教育次長兼学校指導課長)

英語については、聞くことについては力をつけているが、書くことについては少し課題があると思っている。

この点についても、今後分析を進める中で、どのような教え方がいいのか検証したいと思っている。

(横山委員)

特に、書き換えの問題について、正答率が低いようだが。

(竹中教育次長兼学校指導課長)

空欄を補充するような問題で、これまで習った単語を思い浮かべながら適切に当てはめていくというものを出题したが、この正答率が思っていたよりも低く、全体の正答率を下げることになった。

(金田委員長)

小学校4年生で、特に算数や国語などについて分からないことを残してしまうと、その

後の5年生や6年生の授業も理解しにくくなってしまふ。

小学校4年生の正答率の低下については、分析を徹底して行い、授業の改善につなげてもらいたい。

(八重澤委員)

過去に正答率が低かった問題を、再度出題することはあり得るのか。

(竹中教育次長兼学校指導課長)

経年変化等を調べるためには、そのようなことも必要かと思っている。今回、各教科おむね30題程度出題しているが、そのうち4題程度は、過去数年以内に出題された問題と、分野や内容がよく似た問いかけになっている。

そのようなものについて分析したところ、ほぼ前回と同じ正答率となっている。

(八重澤委員)

正答率に変化がないということは、効果が現れていないということか。

(竹中教育次長兼学校指導課長説明)

今回は、過去できなかつたところを再度問うという出題がなかったので、そのような点について検討したい。

(橋正委員)

県教育委員会は、例えば、活用力をつけるなどの指導の重点を示しているが、実際の授業の質がそれに応じて変化していると捉えているのか。それとも、昔と比べてもあまり変わらないと捉えているのか。

(竹中教育次長兼学校指導課長)

指摘のとおり、数年前から活用力を高めるための授業を進めている。今回の教員に対するアンケート調査では、「いしかわ学びの指針12か条を意識した授業を常々行っている」、「児童生徒の発言の機会や活用の時間を確保して学び合う場を設けるように工夫している」などという回答もあり、また、小学校ではコンピュータを使ってデジタル教材を活用した工夫も行われているようである。

8月26日にフォーラムを開催し、各学校の優れた事例を共有したいと思っており、そのような機会を通じて取組の推進を図っていきたい。

(金田委員長)

教育センターを始めとする優れた研修システムが出来上がりつつあるので、教員がそれで腕を磨くように指導していただきたい。

(木下教育長)

平均点も大切だが、1つ1つの設問の中身を、分布も含めて分析するよう指示した。ど

こが強く、また弱いのかについての県の平均を出し、各市町、各学校、各クラスの中でも弱点、得意な点をしっかりと整理していきたいと思っている。

これらを受けて、教科指導の改善について、対処方針を具体的に立てていきたいと思っている。

報告第2号 平成24年石川県優良部活動指導者表彰について
(濱辺教育次長兼スポーツ健康課長説明)

8ページをお開きください。

この表彰は、学校部活動の指導者として、特に優秀な教職員を表彰し、その功績をたたえるとともに、本県教育の振興、発展に資することを目的に実施している知事表彰であり、このたび、去る7月12日に14名の指導者を表彰したところでございます。

いずれも、生徒との信頼関係を深め、全国大会等において、優秀な成績を収めるなど、各部門において、卓越した指導力を発揮した指導者であり、今回の表彰を新たな契機として、今後益々活躍してくれるものと期待しております。

【質疑】

(八重澤委員)

吹奏楽部が選ばれている。文化部はなかなか出てこないが、懸命に指導している先生も多いので、表彰できたらいいと思う。

(濱辺教育次長兼スポーツ健康課長)

金沢桜丘高校の吹奏楽部は、昨年度の全国高校コンクールで金賞を受賞した。

他の運動部についても表彰の基準を設けており、全国大会で優勝または2位になった場合としているが、今回はそれに匹敵するということで、表彰の対象になっている。

(横山委員)

平成24年の実績で表彰したとのことだが、25年も同様に顕著な実績を残せば、また表彰されるのか。そうすれば、更に頑張るという人が出てくると思うが。

(濱辺教育次長兼スポーツ健康課長)

年ごとの成績で表彰する。したがって、今回の表彰を受けた者も、今年の成績によってまた来年表彰される可能性がある。

(金田委員長)

以降の審議については非公開となるため、傍聴人の退席を促す。

議案第23号 石川県産業教育審議会委員の委嘱について（非公開）

竹中教育次長兼学校指導課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

議案第24号 教職員の人事について（非公開）

金戸庶務課長及び齊田教職員課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

・閉会宣言

金田委員長が、閉会を告げる。